



洋風居酒屋「Pannonica」
 岐阜市神田町5丁目17杉山ビル B1F
 Tel. 058-214-8623
 URL <https://www.facebook.com/pannonica.jpiano>

ジャズが流れ、 ジャズを楽しめる 岐阜のまちを夢みて



オーナー、ジャズボーカリスト
比嘉幸恵さん

岐阜市神田町5丁目。長良橋通り沿い、柳ヶ瀬バス停からほんの少し南に歩けばすぐという好立地。中心市街地柳ヶ瀬地区の賑わい拠点ともいえるこの場所のビルの地下1階に「岐阜でジャズを気軽に」をコンセプトに、洋風居酒屋「Pannonica」が今年2月にオープンしました。当所の創業支援メニューなどを利用して開業に至った内容などを交えて、オーナー比嘉さんのこれまでの道のりをご紹介します。

オーナーは、ジャズボーカリストでもある比嘉幸恵さん、36歳。

音楽との出会いはピアノでした。2歳半からクラシックピアノを習い始め、高校も音楽科へ進みました。その後、ポップスピアノ、そしてジャズピアノに出会いました。

比嘉さんは、ジャズミュージックを聴き、弾き重ねていくうちに、その芸術性と創意性にすっかり魅了されてしまいました。そして：

「**ジャズピアニストになりたい**」

いつしか、そんな夢を描くようになりました。

しかし、思わぬことが：

将来の夢に向かって毎日7、8時間という練習をこなしているうちに、大事な右指が運動障害にかかり、徐々に思うように動かなくなっていくたのです。

「もうピアノが弾けない…」

目標を失った比嘉さんは、心を閉ざすようになりました。

そんな比嘉さんを救ったのは、ある行きつけの「ジャズバー」でした。

浅知恵で…など、厳しい意見ばかりでした」

ですが、比嘉さんはようやく描くことが出来た「夢」を諦めることはできませんでした。

夢は自分で掴むもの、そう信じて

「そうは思っても、いざ起業となると、何をどうしているのかさっぱりわかりませんでした」

比嘉さんは、まず資金を貯めるために、工場や飲食店などを掛け持ちで働きました。その間、ミュージシャンとの繋がりを作るため、各地のライブハウスに通いました。また、歌を勉強し、自らシンガーとしてステージに立つようにもなりました。これも新たな出会い、人との交流を上げるためにはじめてことです。

そして、起業という夢を目指してから約8年が経ち、蓄えが出来た頃、名古屋で開催された経営者セミナーに出掛け、そこで知り合った仲間に「商工会議所に行ってみたら」と薦められました。

担当Voice

当所 大野経営支援員

昨年の4月、創業についての相談を受け、今年の2月に柳ヶ瀬の空き店舗に出店創業まで支援しました。比嘉さんはその間、創業スクールにも積極的に参加され、経営に関するさまざまな面からの勉強を重ねられました。

「岐阜に音楽文化を広げたい」という想いのもと、店舗レイアウトには先ずもって「ジャズの生演奏」を可能とするものとし、プロミュージシャンはもとより、アマチュア音楽家の発表の場にも提供する店としたことには「中心市街地柳ヶ瀬地区の活性化の一翼も担いたい」という意欲的な想いもありました。新しい柳ヶ瀬地区の顔、動線を創り出す店として定着すべく今後も広報活動や販路拡大などを中心に継続支援していきます。

ある日、海外からの大物ミュージシャン招へいのため、忙しくなるから店を手伝ってくれないかとオーナーに声を掛けられました。そこは馴染の店。しかし、初めてスタッフとしてホールに立った比嘉さんが目にしたのは、全く別の光景でした。

それは、美味しい料理とともに、大好きなジャズを楽しんでる「お客様の笑顔」。ミュージシャンと「お店」との一体感でした。

なんて**笑顔が溢れる楽しい空間**なんだろう：

この出来事が、指が故障しジャズピアニストになる夢を失い落ち込んでいた比嘉さんに、新たな夢を持つきっかけとなりました。

「自分はステージに立てなくても、**お客様と音楽とお店が一体**となった、楽しくて**素敵な空間**が作りたい」

起業、という新たな目標ができたのです。

しかし、周りに相談すると、ほとんどが反対…。「簡単なことのように思えず、すぐ駄目になる、女の」

柳ヶ瀬に出店して、本当に良かったです

比嘉さんは、お店の場所を探す際、迷いはしたものの、心のどこかでは柳ヶ瀬に決めていました。そこには「大好きな岐阜のまちを、音楽の力で元気にしたい。そのためにも少しでも貢献できる場所でありたい」という想いが、いつも奥底にあったからです。

「近くのジャズライブがあるバーや居酒屋のオーナーさん達からは、仕入れ先やライブ時の料理の出し方、ミュージシャンへの依頼の仕方などを教えていただきました。商店街の理事長さんはじめ皆さんには、こういったジャズを楽しめる店ができたことを、とても歓迎していただきました」

起業までの道のりを通して「一人では何もできなかった」と、比嘉さんは感謝一杯に振り返ります。

「その恩返しも込めて、これからは成功という大きな夢に向かって、最大限に努力をしていきます」

「今は、開業という夢がかなっただけ。スタートラインに立っただけ。」

「本当の厳しさはここからです」

そう、心に何度も強く言い聞かせます。

地下に向かう階段を一步步進めば、次第に大きくなるジャズミュージック。扉を開ければ、今夜もそこは「swing」したくなるような空間。

そして、比嘉さんの笑顔が待っています。